

会 議 録

会 議 名	平成30年度第1回 三芳町まち ひと しごと創生総合戦略審議会
開 催 日 時	平成31年3月22日(金) 11時15分開会 12時40分閉会
開 催 場 所	三芳町役場 2階 201会議室
主宰者氏名	政策推進室
出席者	町長 林伊佐雄 朝倉はるみ委員、鈴木浩委員、田村五九男委員、仲田政司委員、米本真吾委員 坂口大志委員、山崎百恵委員
欠席者	遠藤日出夫委員
事務局職員	政策推進室 室長 百富由美香 副室長 島田高志 主幹 富田篤
議 題	<p>1 開 会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 委嘱状交付</p> <p>4 委員紹介</p> <p>5 職員紹介</p> <p>6 会長の互選</p> <p>7 諮問</p> <p>8 協議事項</p> <p>①三芳町まち・ひと・しごと創生総合戦略について</p> <p>②まち・ひと・しごと創生総合戦略重要業績評価指標(KPI)進捗状況について</p> <p>③人口の動向について</p> <p>④今後のスケジュールについて</p> <p>⑤その他</p> <p>4 閉 会</p>
会議結果	<ul style="list-style-type: none"> ・会長 互選により 朝倉はるみ委員が選出された。 ・職務代理 互選により 鈴木浩委員が選出された
配布資料	添付のとおり

発言者	議題・発言・結果
	<p>開 会</p> <p>あいさつ 町長より挨拶</p> <p>委嘱状交付 代表して朝倉はるみ委員に交付</p> <p>委員紹介</p> <p>職員紹介</p> <p>会長の互選 ①会長は互選により朝倉はるみ委員が選出された ②職務代理は互選により鈴木浩委員が選出された</p> <p>協議事項</p> <p>①三芳町まち・ひと・しごと創生総合戦略について事務局に説明を求めた。</p>
事務局	配布資料に基づき事務局より説明
委 員	日本全体が少子高齢化に向かっている中、三芳町では藤久保第一、第二、藤塚の区画整理事業によって単純に人口が増えるのではと思っているが、実際はどうなのか。また、スマートICフル化によって周辺事業所の活性化につながり、雇用も増えるといった構想を思いつくが、そういった方向に三芳町が進んでいるのかについても伺いたい。
政策推進委室長	三芳町では人口の自然減が始まっており、人口が減少していく状況にある。第5次総合計画では現在の人口を維持していく目標がある。藤久保地区の区画整理事業についてもその目標を達成するための一つの施策であり、住宅地を増やすことで住民を増やし、人口を維持することができるものと考えている。人口ビジョンでは2060年には三芳町の人口が2万人という推計が出ているが、2060年の目標人口を3万人としている。これは3万人という人口を維持できれば、現在のようなまちづくりが進めていけるだろうという予測から設定したものである。今のまちの規模を維持できるような政策を進めて

	いきたいと考えている。
委 員	国の方でも空き家対策について進めていると思うが、三芳町での空き家対策はどのようになっているのか伺いたい。
事務局	3月議会にて空き家に関する条例が可決された。今後は三芳町内の空き家の状況を調査し、現況を把握した後に空き家バンクをつくるなどの施策に繋がっていかねばと考えている。
委 員	先ほどの質問と関連するが、人口の自然減が始まっているということだが、世帯数はどのようになっているのか。
事務局	世帯数については、一人暮らし世帯が増えているということもあり増加傾向にある。
委 員	世帯数が増えているということは、若い世代の転入者が増えてきているという考え方で良いのか。
事務局	三芳町は30代から40代の子どもがいる世代に選ばれている町でもある。人口ビジョンを作成した平成27年度当時では、まだ区画整理事業が完了していなかったが、その時からそういった傾向にあった。近隣の自治体とは異なり、三芳町が特にこういった層から選ばれており、特筆すべき点だと認識している。自然減が多い中で、転出者も増えてしまうと人口減が進んでしまうため、引き続きこういった層に選ばれ、長く定住してもらう施策を進める必要があると考えている。人口が減少傾向にある中でも、一人暮らしの世帯が増加しており、世帯数は増えている。これは他の自治体でも同様の現象がみられる。
委 員	高齢者の一人暮らしが増加しているのか。
事務局	高齢者の一人暮らしも増えている。駅に近い自治体であれば20代の単独世代の転入者が多いという傾向にあるが、三芳町ではそういった層は逆に転出してしまいう傾向にある。三芳町では30代から40代で家族を伴って転入してくるという傾向にある。
委 員	総合戦略の基本目標Ⅳ「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに地域と地域を連携する」とあるように、30代、40代の世代も多く引き寄せられるような、また高齢者世帯も安心して住んで良かったと思われるような政策、三芳に住んで良かったと思われるような政策を次の戦略に含めていければと思う。

委員	ふじみ野市や富士見市では外国籍の住民が増加している印象があるが、三芳町ではどうか。
事務局	増加傾向にあるのは聞いている。他市と比較し、特筆して増加しているということは聞いていない。
委員	外国籍の住民を増やしていくという政策は考えているか。
事務局	外国籍の住民を増やしていくという特別な施策はないが、外国籍の方でも住みやすい町ということは当然ながら目指しているところである。ふじみ野国際交流センターと連携し、外国籍住民の日常相談等を行っている。今後も外国籍住民が増加することも予想され、そういったサービスにも力を入れていかなければならない状況ではあると考えている。
委員	<p>国でも人手不足を解消するため外国人労働者に関する政策を進めている。今後、急激に外交人労働者が増加することも見込まれる。国が各自治体に外国人労働者の受入目標等を設定してくることも考えられるため、三芳町においても工場等が多く働き場所も多いので、急激に増加してから対応策を練るよりは、早めに受け入れ態勢を準備しておいた方が良いとも考えられる。そのようなことも次期総合戦略に盛り込むということも検討した方がよいと考えられる。</p> <p>続いて②まち・ひと・しごと創生総合戦略重要業績評価指標（KPI）進捗状況について事務局に説明を求めた。</p>
事務局	<p>配布資料に基づき事務局より説明</p> <p>各委員に意見を求めた。</p>
委員	放課後児童クラブ（学童保育室）定員数確保のKPIで平成29年度実績が331名で平成31年度目標値が411名となっており、開きがあるが、新しく施設等を増やす予定等があるということか。
事務局	先の予定まで確認はとれていない状況だが、今のところ新しい学童保育室ができるということは聞いていない。ただ、国の基準が見直されてきており受け入れ人数等が緩和されてきている傾向にあると聞いている。三芳町ではほとんど学童保育室の待機児童を出していないという状況である。学童保育室の性質上、例えば習い事があるときだけ、夏休み期間中だけ利用したい等の様々なニーズがある中で、毎日通う児童については受入で来ている状況ではある。ただし、目標値を達成するには何か方策を考えないとすぐに達成することは難しいと考えられる。

委員	<p>新たに施設を建設するとお金もかかるため、学校の空き教室を利用したりするということが考えられるのでは。</p>
事務局	<p>三芳町の場合は、ほとんどの学童保育室が学校敷地内にあり、空き教室も活用している。何十年も前からそういった取り組みを行っていて、そういった部分では他に自治体に比べ先進的な取組であったと考えている。学校敷地内に新たに建物を建てるといったことは、いいご指摘のとおりお金もかかるため、児童が減っている学校もあり、空き教室等を活用するというような方向で今後も調整していく必要があると考えている。保育所の待機児童数についても他の自治体では課題となっているが、三芳町では待機児童数が1名となっており、これはどうしても希望に合わなかったため待機となってしまったと聞いている。こういったことから、共働きの世帯が転入してきても安心して暮らせる環境にはあると考えられる。</p>
委員	<p>基本目標Ⅱで観光についての記述があるが、観光入込客数のKPIでは平成29年度実績が低下傾向にある。三芳町では三富新田やさつまいも等、農業資源うまく活用して人を呼び込む施策を展開していると思う。三芳町を訪れて、知ってもらうことで「三芳町が東京からこんなに近い町で、こんなに良いものが多い。それならば住んでみたい」と思わせることが重要であるとかんがえられる。まずは三芳町を訪れてもらう、体験してもらうということを考えた中で、今あるコンテンツのみならず他のコンテンツとの融合や近隣自治体とのコラボレーションするような施策というのは何か考えているか。</p>
事務局	<p>農泊協議会を立ち上げ、畑に泊まり、色々なことを体験する取組を始めた。三芳町の良さを満喫してもらえるような事業となっている。平成28年度には地方創生加速化交付金の採択を受け、都内から人を呼び込み三芳町で様々な体験をしてもらう事業を行ったところ大変好評だったと聞いている。スマートICフル化に伴い、川越等も含め様々な地域から来訪してもらうための事業計画の検討はあるが、現在のところ具体的にはなっていない状況である。総合戦略とは別の分野で計画検討を行っている。</p>
委員	<p>KPIの中で高齢者が暮らしやすくなるような指標というものがないと思われるが、そういった指標もあると良いのでは。山崎委員は福祉分野に携わっているということですが、何かご意見はありますか。</p>
委員	<p>最近、「地域の居場所づくり」といった取り組みが盛んになっている。こういった取り組みは、それに携わる住民にとっても生きがいになるし、利用する人にとっても元気が出るといった相乗効果がみられる。今後は高齢者のみならず、子育て中の親なども絡めて、そういったことに波及できれば、地域にとってももっと良い効果が得られるのではと考えている。先ほど若い世代</p>

	<p>の転入者が増加しているとあったが、地域でお互いに協力して面倒を見合おうという考えの方がまだ少なく、こういった面に町が協力してくれるとそういった世代の方にも三芳町に住んで良かったと思ってもらえるのではないかと思う。先ほど外国人労働者の話題も出たが、そういった方たちも巻き込んで地域社会を良いものにできればと考えている。実際、今取り組んでいる中では外国籍の方もいる。</p>
委員	<p>外国籍の方も巻き込んで地域を支えるといったこともすごく良い考え方であるが、現在携わっている住民の方も高齢化していくことになるので、何らかの町で支えるシステムができると大きな投資をしなくても、地域の拠点で快適に過ごせるよう支援ができると思う。今後 KPI の見直しも可能であればそういった点も踏まえた指標も入れても良いのでは。三芳町は「高齢者も安心して暮らせる町」ということに繋げるにはそういった指標をとることで目標達成につながるのでは。空き家も増えているということもあるので、そういった資源もできる限り活用すれば新たな施策につながると考えられる。</p> <p>続いて③人口の動向について事務局に説明を求めた。</p>
事務局	<p>配布資料に基づき事務局より説明</p>
委員	<p>三芳町への転入者、転出者は近隣（富士見市、ふじみ野市、川越市）からが多いという傾向だが、奪い合いのような状況になっていると捉えられるか。</p>
事務局	<p>現状では、近隣からの転出入が多い傾向にあり、これはある意味、そういった方たちにとって、この辺りが住みやすいと思ってもらえていると考えられる。</p>
委員	<p>都心で働く方たちにとっては、東京から近い距離で自然にも恵まれている、この地域に住みたいと思ってもらえていると考えられる。関東圏でも例えば栃木県や群馬県の方で「都心で働きたいと思っている層」をターゲットに移住者を増やすことも考えられると思う。三芳町の独自性を形成し、政策を展開することで、近隣自治体との差別化を図り三芳町の人口維持にも寄与できると考えられる。近隣自治体の取組みについても研究が必要だと考えられる。</p>
委員	<p>三芳町の特徴として、北風による土埃があり、それが住民にとってマイナス面にはたらいってしまう場合もあるが、そういったマイナス面を補って余りあるくらい、三芳町は災害に強い町だと思う。</p>
委員	<p>災害がない町ということは町にとって非常に強みであると考えられる。</p>

委員	三芳町には良い面が多くある。災害がない町というのも非常に良いし、人も皆温かみがあり、非常に良い人が多いと感じる。
委員	実際には住んでみないと分からないという部分もある。先ほど出た意見で土埃によるデメリットもあれば、それを上回るメリットとして災害がないということも挙げられる。こういった住みやすい部分や町の強みのレベルを上げていくといったこともできると思う。
委員	今までも取組はあると思うが、遊休農地等に麦などを植えて、土埃を防ぐといったことも有効であると思う。そう言った観点から、障がい者や若年の高齢者に農業を行ってもらうことで、土埃の課題解決にも貢献するという取り組みも考えられるのではと思う。
委員	農業者の方と協力して、福祉分野とコラボレートすることで、土埃を抑えることに繋がれば、非常に面白い取り組みになると思う。
委員	実際には、遊休農地等に作物等を植えたときの補助事業は行っているが、周知が行き届いていない部分もある。また、ある程度区画整理等により宅地化する部分と農地として残す部分の住み分けをしていかないといけないと考えられる。
委員	農業者にとっても、そうではない人にとっても、より良い住環境整備ということは必要であり、今後はより良い土地の使い方も考えていかなければならないと思う。
委員	土埃対策に繋がるか分からないが、例えば賃貸物件等に除湿器を完備することで住みよい住環境整備につながると考えられる。お金がかかることだが例えば補助制度を整備するという事も考えられる。
委員	現在、気密性の高いパッキンがあり土埃の対策になるが、住宅を整備する際、こういった気密性の高いパッキン類を使った場合に補助をするといったことも考えられる。
委員	お金が絡むことで実現は難しいと考えられるが、三芳町には「土埃のデメリット」があるが、そういった補助事業でカバーしているといった施策があっても面白いと思う。
事務局	<p>続いて④今後のスケジュールについて事務局に説明を求めた。</p> <p>配布資料に基づき事務局より説明</p>

	続いて⑤その他について事務局に説明を求めた。
事務局	⑤その他として、事務連絡を行った。
朝倉会長	それでは、本日の会議は終了いたします。本日各委員から出された意見については事務局で整理しておいてください。これにて、議長の「つとめ」を降ろさせていただきます。議事進行にご協力いただき、誠にありがとうございました。
	閉 会